

201328004B

厚生労働科学研究費補助金
医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業

妊娠・授乳期における医療用医薬品の使用上の注意の

在り方に関する研究

(H23-医薬-一般-005)

平成23年度～25年度 総合研究報告書

研究代表者 吉川 裕之

筑波大学 医学医療系
産科婦人科学 教授

平成26（2014）年 3月

目 次

I. 総合研究報告

妊娠・授乳期における医療用医薬品の使用上の注意の在り方に関する研究----- 1
吉川 裕之

II. 研究成果の刊行に関する一覧表 ----- 33

III. 研究成果の刊行物・別刷 ----- 35

厚生労働科学研究費補助金
(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)
総合研究報告書

妊娠・授乳期における医療用医薬品の使用上の注意の在り方に関する研究

研究代表者 吉川 裕之 筑波大学医学医療系産科婦人科学 教授

研究要旨

日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会が発行する産婦人科診療ガイドライン-産科編 2014 に SEA-U 分類の理念を盛り込んだ新しい CQ & A を収載することが、本分類の普及にとどまらず、妊娠・授乳期における現在の医療用医薬品添付文書の使用上の注意のより適切な在り方の構築に大きく寄与すると考えられ、3 年間にわたる研究分担者による様々な研究により得られた結論をもとに、様々な観点から詳細な検討を加え、最終的な新 CQ & A として 4 項目を完成させた。この 4 項目が、2014 年 4 月発行の産婦人科診療ガイドライン-産科編 2014 に掲載されることが決定した。

この新 CQ & A 4 項目の産婦人科診療ガイドライン-産科編 2014 への収載は、妊娠・授乳期におけるわが国の医療用医薬品添付文書の使用上の注意の問題点の解決に向けた第 1 歩となる。

研究分担者

三橋 直樹
順天堂大学医学部
附属静岡病院・病院長
生水 真紀夫
千葉大学大学院医学研究院
生殖医学・教授
江馬 眞
(独) 産業技術総合研究所
安全科学研究部門・招聘研究員
北川 浩明
虎の門病院
産婦人科・部長
林 昌洋
虎の門病院
薬剤部・部長

濱田 洋実
筑波大学医学医療系
総合周産期医学・教授
佐藤 信範
千葉大学大学院薬学研究院
臨床教育学・教授
村島 温子
国立成育医療研究センター
周産期・母性診療センター
主任副センター長
水上 尚典
北海道大学大学院医学研究科
産科生殖医学分野・教授

A. 研究目的

我々は、平成 17～19 年度厚生労働科学研究費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業）「臨床及び非臨床のデータに基づく医薬品の催奇形性のリスク分類に関する研究」における研究成果として、SEA 分類の考え方を提唱した。さらに平成 20～22 年度厚生労働科学研究費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業）「妊婦及び授乳婦に係る臨床及び非臨床のデータに基づき、医薬品の催奇形性リスクの評価見直しに関する研究」の研究成果として、SEA 分類の考え方を具体化させた SEA-U 分類を完成させた。

我々が完成させた SEA-U 分類は、従来の妊娠と薬に関する情報源の欠点を補うものであり、臨床的有用性がきわめて高いと考えられるが、今後はその普及について効果的な戦略を検討する必要がある。本分類の普及は、妊娠・授乳期における現在の医療用医薬品添付文書の使用上の注意のより適切な在り方の構築にもつながるものである。

一方、わが国の産科診療においては、日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会が発行する「産婦人科診療ガイドライン-産科編」が、2008 年の初版以来、診療ガイドライン作成の正しい手順を踏んだ唯一のガイドラインとして、ほぼすべての産科医療機関で広く利用され高く評価されている。産科診療に関する Clinical Question (CQ) と Answer (A) とその解説が掲載されている。次回改訂版の発行は 2014 年 4 月である (2014 年版)。

そこで、このガイドライン 2014 年版に SEA-U 分類の理念を盛り込んだ新しい CQ & A を収載することが、本分類の普及にとどまらず、妊娠・授乳期における現在の医療用医薬品添付文書の使用上の注意のより適切な在り方の構築に大きく寄与すると考えられ、その新 CQ & A の完成を本研究の目的とした。

B. 研究方法

平成 23 年度～25 年度の各年度において、研究分担者による様々な研究を行い、その結論・成果をもとに、妊娠・授乳期における現在の医療用医薬品添付文書の使用上の注意の問題点をふまえて、研究代表者、研究分担者、さらに妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師の資格を持つ研究協力者とともに新 CQ & A 項目の作成を行う、という方法を用いた。加えて、日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会のガイドライン作成委員会やガイドライン評価委員会での討議内容、さらに日本産科婦人科学会ホームページに掲載して全国の産婦人科医の意見を聴取し、それらも参考とした。

各年度における分担研究は以下の通りである。

1. 平成 23 年度
 - a. 医薬品の有用性を危険性の記載にどう反映させるかに関する研究
 - b. 妊婦投与に関する薬剤添付文書の記載変更にともなう降圧剤処方の変化
 - c. ウサギ出生前発生毒性試験の背景対照データ
 - d. 授乳婦への医薬品投与に関する危険度分類の構築に向けて
 - e. 妊婦・授乳婦に関する添付文書記内容の日・米・英比較研究
 - f. 本邦における新たな妊娠中の医薬品使用に関する危険度分類の検討
 - g. 妊娠と薬情報センターでの相談集計から推測する生殖年齢女性の薬剤使用実態
 - h. 妊婦における抗インフルエンザ薬使用状況と安全性に関する研究
2. 平成 24 年度
 - a. 妊娠と薬情報センターのデータベースを用いた降圧剤使用の実態と問題点の解析
 - b. 妊娠中のベンゾジアゼピン系薬剤 (BZD) 使用に関する症例研究
 - c. 先天異常調査会が最近 20 年で取り上げた問題の分析
 - d. ラット催奇形性試験の背景対照データの解析
 - e. 妊娠初期血清葉酸濃度と胎児発育なら

びに流早産頻度に関する研究

f. 千葉大学医学部附属病院における妊娠と薬相談からの妊娠中の薬剤使用に関する考察

g. 妊婦・授乳婦薬物療法の臨床情報に関する添付文書記載の日・米・英比較研究

h. 授乳婦への医薬品投与に関する危険度分類の構築に向けた PEC 分類第 2 版の再評価

3. 平成 25 年度

a. 妊娠と薬情報センターのデータベースを用いたバルプロ酸使用の実態と問題点

b. 妊娠中の薬物動態に関する添付文書記載の日・米・英比較研究

c. 抗インフルエンザ薬 Laninamivir を妊娠中に服用した女性の妊娠予後について検討

d. 子宮卵管造影周期に妊娠した胎児の甲状腺腫に関する考察

e. げっ歯類を用いた発生毒性試験の背景対照データ

なお、Answer については、産婦人科診療ガイドライン-産科編の規定に沿って、推奨レベル (表 1) の決定も行った。さらに CQ & A そのものだけでなく、その解説についても検討した。

(倫理面への配慮)

本研究のうち、対象となる個人が存在する一部の分担研究においては、研究遂行そのものによる対象者への直接の不利益はないものの、個人情報の取り扱いにあたっては、それぞれに適用される法令、条例、指針等を遵守するとともに、データを連結不可能匿名化する等、その情報管理に細心の注意を払って遂行した。その他については、対象となる個人は存在せず、その他にも特段の配慮は不要と考えられた。

C. 研究結果

完成した新 CQ & A および解説を表 2~5 に示した。

この 4 項目が産婦人科診療ガイドライン-産科編 2014 に収載されることが決定した。

D. 考察

以前より我々が指摘しているように、妊娠・授乳期における現在の医療用医薬品添付文書の使用上の注意の問題点として、産科診療上の大きな問題点は 3 つある。

第 1 に、その医薬品投与が必要不可欠な女性がいるにもかかわらず、妊娠女性禁忌とされている医薬品の問題である。第 2 に、使用上の注意はあくまで、妊娠女性に対してその医薬品をこれから投与する場合の注意点を示したものであり、妊娠と気づかずに投与された、いわば偶発的使用に対する対応を示したものではないことである。第 3 には、わが国の医療用医薬品添付文書上約半分を占めるいわゆる有益性投与の医薬品についての問題である。

こうした問題点を解決し、妊娠・授乳期における医療用医薬品の適正使用の推進を目指して本研究は遂行された。

本研究によって完成した CQ & A は 4 項目である。まず、妊娠・授乳期における医療用医薬品の適正使用のために、医師・薬剤師等の医療従事者がけっして忘れてはならない総論的事項を CQ104-1 (表 2) とした。医薬品の妊娠中投与による胎児への影響について質問された場合に、医療従事者はまず妊娠時期を慎重に同定し (Answer 1)、その胎児への影響はヒトの先天形態異常の頻度との比較で説明し (Answer 2)、胎児への悪影響だけではなくその医薬品の有用性についても説明に心がける (Answer 3)。具体的には正しい情報源をもとに説明すべきであり (Answer 4)、それが難しいときは厚生労働省の事業として行われている「妊娠と薬情報センター」などの情報を提供する (Answer 5)。この総論的 CQ & A だけでも、妊娠女性とその児に有益な情報が十分に網羅されており、現在の医療用医薬品添付文書の使用上の注意においても、その基本となる考え方といえる。

さらに、上記の 3 つの問題点をひとつずつ解決していくために、それぞれ対応する 3 つの CQ & A を完成させた。

CQ104-2 (表 3) によって、その医薬品投

与が必要不可欠な女性がいるにもかかわらず、妊娠女性禁忌とされている医薬品の問題について、臓器移植後妊娠をはじめとした女性らには大きな恩恵がもたらされる。同時に、こうした医薬品の医療用医薬品添付文書の使用上の注意の改訂につながることを望まれる。CQ104-3 (表 4) は、妊娠初期のいわゆる偶発的使用によっても臨床的に有意な胎児リスク上昇がないと考えられる医薬品を明示した画期的な CQ & A である。医療用医薬品添付文書上妊娠女性に対して使用禁忌と読み取れる医薬品を使用中に妊娠が判明した場合、安易に人工妊娠中絶が選択される可能性が否定できない現在、こうした人工妊娠中絶の可能性を減らして、母児を守るための CQ & A である。将来、こうした情報も、わが国の医療用医薬品添付文書の使用上の注意に盛り込むことができればよいと考えられる。

一方、医療用医薬品添付文書の記載においてはいわゆる有益性投与の医薬品が非常に多い中で、胎児への危険性からまさにその医薬品固有の有益性を考えるべき医薬品を CQ104-4 (表 5) に明示した。医療関係者への注意喚起として、大きな役割を果たすものと期待される。また、こうした内容の医療用医薬品添付文書へのフィードバックを検討すべきである。

これらの新 CQ & A の 4 項目は、そのままの形で産婦人科診療ガイドライン-産科編 2014 に新規項目として収載されることが決定した。医療用医薬品については、その承認時に臨床試験等で得られている「妊娠と薬」に関する情報が少ないため、その適正使用のためには添付文書の使用上の注意における情報の充実が必要であり、この収載はそうした問題点解決に結びつくものである。

E. 結論

妊娠・授乳期における医療用医薬品の使用上の注意の在り方に関連して、産婦人科診療ガイドライン-産科編 2014 に収載する新しい Clinical Question & Answer 4 項目

を完成させた。これは、妊娠・授乳期における現在のわが国の医療用医薬品添付文書の使用上の注意の問題点の解決に向けた第 1 歩となる。

F. 研究発表

1. 論文発表

論文発表

1. 吉川裕之:「各国が定める妊娠期におけるリスクカテゴリー」月刊薬事(特集)妊娠と薬物療法 じほう 53(8):93-98, 2011. 7月.
2. Nagatomo S, Hamada H, Yoshikawa H. The elongation of Fe-His Bond in α subunit induced by binding of the allosteric effector bezafibrate to hemoglobins. J Phys Chem B, 2011, 115(44):12971-12977.
3. Tanaka YO, Yoshikawa H, et al. Solid non -invasive ovarian masses on MR: Histopathology and a diagnostic approach. Eur J Radiol, 2011, 80(2): e91-e97.
4. Onda T, Yoshikawa H, et al. The History of the Gynecologic Cancer Study Group (GCSG) of the Japan Clinical Oncology Group (JCOG). Jpn J Clin Oncol, 2011, 41(10): 1156-1161.
5. Nakamura E, Yoshikawa H, et al. Villin1, a diagnostic marker for endometrial adenocarcinoma with high grade nuclear atypia. Cancer Biology & Therapy, 2011, 12(3):181-190.
6. Onda T, Yoshikawa H. Neoadjuvant chemotherapy for advanced ovarian cancer: overview of outcomes and unanswered questions. Expert Review of Anticancer Therapy, 2011, 11(7):1055-1069.
7. Obata-Yasuoka M, Hamada H, Yoshikawa H, et al. Alveolar

- capillary dysplasia associated with duodenal atresia: Ultrasonographic findings of enlarged, highly echogenic lungs and gastric dilatation in a third-trimester fetus. *J Obstet Gynecol Res*, 2011, 37(7):937-939.
8. Tanaka Y, Yoshikawa H, et al. Ovarian serous surface papillary borderline tumors form sea anemone-like masses. *J Magn Reson Imaging*, 2011, 33(3):633-640.
 9. Matsumoto K, Yoshikawa H, et al. Predicting the Progression of Cervical Precursor Lesions by Human Papillomavirus Genotyping: A Prospective Cohort Study. *Int J Cancer*, 2011, 128(12):2898-2910.
 10. Yagi H, Hamada H, Yoshikawa H, et al. Complete restoration of phenylalanine oxidation in phenylketonuria mouse by a self-complementary adeno-associated virus vector. *J Gene Medicine*, 2011, 13(2):114-122.
 11. Konno R, Yoshikawa H, et al. Prevalence and type distribution of human papillomavirus in healthy Japanese women aged 20 to 25 years old enrolled in a clinical study. *Cancer Sci*, 2011, 102(4):877-882.
 12. Fujiwara K, Yoshikawa H, et al. A Randomized Phase II/III Trial of 3 Weekly Intraperitoneal versus Intravenous Carboplatin in Combination with Intravenous Weekly Dose-Dense Paclitaxel for Newly Diagnosed Ovarian, Fallopian Tube and Primary Peritoneal Cancer. *Jpn J Clin Oncol*, 2011, 41(2):278-282.
 13. Tran TC, Hamada H, Yoshikawa H, et al. Identification of human placenta-derived mesenchymal stem cells involved in re-endothelialization. *J Cell Physiol*, 2011, 226(1):224-235.
 14. 藤井多久磨、三橋直樹、他:「悪性腫瘍手術後のリンパ嚢腫発生予防の工夫と管理」産婦人科手術 2011, (22):168-168.
 15. 田口雄史、三橋直樹、他:「産婦人科救急マニュアル 婦人科領域 12. 骨盤内感染症(PID)」産科と婦人科, 2011, 78(特殊号:増刊号):219-224.
 16. 生水真紀夫. 特集 妊娠女性の高齢化と周産期に増えるリスク「卵子 aging とメカニズム」. 日本医師会雑誌, 2011, 139(10):2084
 17. Nohata N, Shozu M, et al. miR-1 as a tumor suppressive microRNA targeting TAGLN2 in head and neck squamous cell carcinoma . *Oncotarget*, 2011, 2(1-2):29-42.
 18. Usui H, Shozu M. Molecular Distinction of Consecutive Molar Pregnancies. *Obstet Gynecol*, 2011. 117(2, Part 2):492-495.
 19. 碓井宏和、生水真紀夫、他「婦人科がん妊孕性・卵巣機能温存治療と妊娠・分娩 胞状奇胎後の妊娠」産婦人科の実際, 2011, 60(2):217-221.
 20. Fukami M, Shozu M, et al. Aromatase Excess Syndrome: Identification of Cryptic Duplications and Deletions leading to Gain of Function of CYP19A1 and Assessment of Phenotypic Determinants. *J Clin Endocrinol Metab*, 2011, 96(6):E1035-E1043.
 21. Nakada E, Shozu M, et al. mRNA induces RANTES production in trophoblast cells via TLR3 only when delivered intracellularly using lipid membrane encapsulation. *Placenta*, 2011, 32(7):500-505.
 22. Matsumoto M, Ema M, et al.

- Developmental toxicity of nitrophenolic herbicide dinoseb, 2-sec-butyl-4,6-dinitrophenol. *Herbicides and Environment*, Edited by Kortekamp A, 2011, InTech, ISBN 978-953-307-476-4. <http://www.intechopen.com/articles/show/title/developmental-toxicity-of-nitrophenolic-herbicide-dinoseb-2-sec-butyl-4-6-dinitrophenol>
23. Hirata-Koizumi M, Ema M, et al. Two-generation reproductive toxicity study of aluminium sulfate in rats. *Reprod Toxicol*, 2011, 31(2):219-230.
 24. Hirata-Koizumi M, Ema M, et al. Evaluation of the reproductive and developmental toxicity of aluminium ammonium sulfate in a two-generation study in rats. *Food Chem Toxicol*, 2011, 49(9): 1948-1959.
 25. 江馬 眞、他:「フラーレン及びその誘導体の遺伝毒性評価」 *環境毒性学会誌*, 2011, 14(1):69-80.
 26. 江馬 眞、他:「カーボンナノチューブの遺伝毒性評価」 *環境毒性学会誌* 2011, 14(1):81-97.
 27. Naya M, Ema M, et al. Evaluation of the genotoxic potential of single-wall carbon nanotubes in a battery of in vitro and in vivo genotoxicity assays. *Regul Toxicol Pharmacol*, 2011, 61(2):192-198.
 28. Ema M, et al. Evaluation of dermal and eye irritation and skin sensitization due to carbon nanotubes. *Regul Toxicol Pharmacol*, 2011, 61(3):276-281.
 29. Kobayashi N, Ema M, et al. Pulmonary and systemic responses of highly pure and well-dispersed single-wall carbon nanotubes after intratracheal instillation in rats. *Inhal Toxicol*, 2011, 23(13): 814-828.
 30. Naya M, Ema M, et al. In vivo genotoxicity study of titanium dioxide nanoparticles using comet assay following intratracheal instillation in rats. *Regul Toxicol Pharmacol*, 2011, 62(1): 1-6.
 31. 北川浩明:「産婦人科救急マニュアル産科領域」急性腹症」 *産科と婦人科*, 78(Suppl.): 56-62, 2011. 3月
 32. 北川浩明:「わが国における医薬品添付文書と PEC 分類」 *薬局*, 2011, 62(7):2801-2809.
 33. 北川浩明:「妊婦に対する薬物療法の考え方」 *月刊薬事*, 2011, 53(8):1067-1072.
 34. 山根律子、林 昌洋:「気管支喘息治療薬」 *薬局*, 2011, 62(7):119-122.
 35. 林 昌洋:「妊婦への投薬に際して注意すべき薬物群」 *薬事*, 2011, 53(8):37-41.
 36. 山根律子、林 昌洋:「妊娠と薬相談外来の実例から学ぶリスクコミュニケーション」 *薬事* 2011, 53(8): 99-103.
 37. Hayashi M, Kitagawa H, et al. Pregnancy outcome of women using Betamethasone: A comparative study, *Congenital Anomalies*, 2011, 51(4):A7
 38. Yamane R, Hayashi M, Kitagawa H, et al. Survey of pregnancy outcomes in women who used etizolam. *Congenital Anomalies*, 2011, 51(4):A7
 39. 濱田洋実、他:「妊娠とくすり」. *産婦人科学レビュー2011* ((木村 正、高木耕一郎、竹田 省、吉川裕之編) pp.64-69, 総合医学社, . 2011.
 40. 安部加奈子、濱田洋実:「母乳脂質質の変化と薬物乳汁移行生(特集「授乳期の服薬相談-基礎と臨床からのアプローチ」)」。 *薬局* 62(7):

- 2760-2764, 2011.
41. Isojima S, Murashima A, et al. Early plasmapheresis followed by high-dose γ -globulin treatment saved a severely Rho-incompatible pregnancy. *Journal of Clinical Apheresis*, 2011, 26(4):216-218.
 42. Horiya M, Murashima A, et al. Efficacy of double vaccination with the 2009 pandemic influenza A (H1N1) vaccine during pregnancy. *Obstetrics and Gynecology*, 2011, 118(4):887-894.
 43. Hisano M, Murashima A, et al. Successful completion of pregnancy in a woman with chronic granulomatous disease. *Obstetric Medicine*, 2011, 4:174-176
 44. 村島温子:「妊娠中の薬剤使用とリスク評価-妊娠と薬情報センターの役割-」産婦人科の実際, 2011, 60(9):1323-1330.
 45. 村島温子、他:「授乳と医薬品情報 授乳中の薬物使用に関する情報源とその動向」薬局, 2011, 62(7):2796-2800.
 46. Yamada T, Minakami H, et al. Pandemic (H1N1) 2009 in pregnant Japanese women in Hokkaido. *J Obstet Gynaecol Res*, 2012, 38(1):130-136.
 47. Nakai A, Minakami H, et al. Characteristics of pregnant Japanese women who required hospitalization for treatment of pandemic (H1N1) 2009--low mortality rate may be due to early antiviral use. *J Infect*, 2011, 62(3):232-233.
 48. Yamada T, Minakami H, et al. No maternal mortality from pandemic (H1N1) 2009 occurred in Japan. *BMJ* 2010 Aug 6. http://www.bmj.com/cgi/eletters/340/mar18_3/c1279
 49. Morikawa M, Minakami H, et al. Risk factors for postpartum hypertension in women with twin pregnancies. *J Perinat Med*, 2011, 40(2):115-120.
 50. Minakami H, Hamada H, Yoshikawa H, et al. Guidelines for obstetrical practice in Japan: Japan Society of Obstetrics and Gynecology (JSOG) and Japan Association of Obstetricians and Gynecologists (JAOG) 2011 edition. *Journal of Obstetrics and Gynaecology Research*, 2011, 37(9):1174-1197.
 51. Morikawa M, Minakami H, et al. Maternal weight gain in twin-twin transfusion syndrome. *Acta Obstet Gynecol Scand*, 2011, 90(12):1434-1439.
 52. Morikawa M, Minakami H, et al. Relationships between fetal growth and maternal body mass indices, plasma glucose level, and plasma insulin level in Japanese women with mildly impaired glucose tolerance. *J Obstet Gynaecol Res*, 2011, 37(12):1797-1801.
 53. Morikawa M, Minakami H, et al. Contribution of twin-to-twin transfusion syndrome to preterm birth among monochorionic diamniotic and dichorionic diamniotic twin pregnancies. *J Perinat Med*, 2011, 39(5):557-561.
 54. Morikawa M, Minakami H, et al. Changes in D-dimer levels after cesarean section in women with singleton and twin pregnancies. *Thromb Res*, 2011, 128(4):e33-38.
 55. Minakami H, et al. Candidates for the determination of antithrombin

- activity in pregnant women. *J Perinat Med*, 2011, 39(4): 369-374.
56. Satoh T, Yoshikawa H, et al. Rapid genotyping of carcinogenic human papillomavirus by loop-mediated isothermal amplification using a new automated DNA test (Clinichip HPV). *Journal of Virological Methods*, 2012, 188(1-2):83-93.
 57. Nakao S, Yoshikawa H, et al. Monoclonal antibodies recognizing cross-neutralization epitopes in human papillomavirus 16 minor capsid protein L2. *Virology*, 2012, 434(1):110-117.
 58. Eto T, Yoshikawa H, et al. Clinicopathological prognostic factors and the role of cytoreduction in surgical stage IVb endometrial cancer: A retrospective multi-institutional analysis of 248 patients in Japan. *Gynecol Oncol*, 2012, 127(2): 338-344.
 59. Obata-Yasuoka M, Hamada H, Yoshikawa H. Impaired glucose tolerance during pregnancy: Possible risk factor for vaginal/anorectal colonization by group B Streptococcus. *J Obstet Gynecol Res*, 2012, 38(9):1233.
 60. Inamine M, Yoshikawa H, et al. Cigarette smoke stimulates VEGF-C expression in cervical intraepithelial neoplasia (CIN) 1 and 2 lesions. *Int J Clin Oncol*, 2012, 17(5):498-504.
 61. Matsumoto K, Yoshikawa H, et al. Subsequent risks for cervical precancer and cancer in women with low-grade squamous intraepithelial lesions unconfirmed by colposcopy-directed biopsy: results from a multicenter, prospective, cohort study. *Int J Clin Oncol*, 2012, 17(3):233-239.
 62. Nagata C, Yoshikawa H, et al. Increased expression of OCIA domain containing 2 during stepwise progression of ovarian mucinous tumor. *Pathol Int*, 2012, 62(7):471-476.
 63. Takeda T, Yoshikawa H, et al. Guidelines for office gynecology in Japan: Japan Society of Obstetrics and Gynecology and Japan Association of Obstetricians and Gynecologists 2011 edition. *J Obstet Gynaecol Res*, 2012, 38(4): 615-631.
 64. Kitagawa R, Yoshikawa H, et al. A multi-institutional phase II trial of paclitaxel and carboplatin in the treatment of advanced or recurrent cervical cancer. *Gynecol Oncol*, 2012, 125(2):307-311.
 65. Ochi H, Yoshikawa H, et al. Do neutralizing antibody responses generated by human papillomavirus infections favor a better outcome of low-grade cervical lesions? *J Med Virol*, 2012, 84(7):1128-1134.
 66. Matsumoto K, Yoshikawa H, et al. HLA Class II DRB1*1302 1 allele protects against progression to cervical intraepithelial neoplasia grade 3: A multicenter, prospective, cohort study. *Int J Gynecol Cancer*, 2012, 22(3):471-478.
 67. Fukami M, Shozu M, et al. Molecular bases and phenotypic determinants of aromatase excess syndrome. *Int' J of Endocrinology*, 2012, 2012: 584807(8 pages)
 68. Miyoshi T, Shozu M, et al. Evaluation of transplacental

- treatment for fetal congenital bradyarrhythmia: A Nationwide survey in Japan. *Circulation Journal*, 2012, 76(2):469-476.
69. Furuya M, Shozu M, et al. Expression of Angiotensin II receptor-like 1 (APJ) in the Placentas of Pregnancy-Induced Hypertension. *Int J Gynecol Pathol*, 2012, 31(3):227-235.
70. Kizaki S, Shozu M, et al. Normal human Chorionic Gonadotropin Regression Curves in Uneventful Postmolar Patients. *J Reprod Med*, 2012, 57(5-6):243-248.
71. Ema M, et al. Genotoxicity evaluation of fullerene C₆₀ nanoparticles in a comet assay using lung cells of intratracheally instilled rats. *Regl Toxicol Pharmacol*, 2012, 62(3):419-424.
72. Ema M, et al. Evaluation for genotoxicity of multi-walled carbon nanotubes in a battery of in vitro and in vivo assays. *Regul Toxicol Pharmacol*, 2012, 63(2):188-195.
73. Naya M, Ema M, et al. In vivo genotoxicity study of single-wall carbon nanotubes using comet assay following intratracheal instillation in rats. *Regul Toxicol Pharmacol*, 2012, 64(1):124-129.
74. Ema M, et al. Historical control data on prenatal developmental toxicity studies in rabbits. *Congenit Anom*, 2012, 52(3):155-161.
75. 北川浩明: 多嚢胞性卵巣症候群. 竹内靖博, 竹下 彰, 宮川めぐみ編. 虎の門病院内分泌ハンドブック. 大阪: 医薬ジャーナル社, 2012. 356-359.
76. 北川浩明: ホルモン補充療法. 竹内靖博, 竹下 彰, 宮川めぐみ編. 虎の門病院内分泌ハンドブック. 大阪: 医薬ジャーナル社, 2012. 360-363.
77. 北川浩明: 多毛症. 竹内靖博, 竹下彰, 宮川めぐみ編. 虎の門病院内分泌ハンドブック. 大阪: 医薬ジャーナル社; 2012. 364-367
78. 小川浩平, 村島温子, 他: 「塩酸リトドリンの点滴投与が妊娠中の血糖に及ぼす影響についての検討」日本周産期・新生児医学会雑誌, 2012, 48:606-610.
79. 村島温子: 「アレルギー疾患と妊娠」アレルギー 2012, 61(2):181-183.
80. 八鍬 奈穂, 村島温子, 他: 「妊娠中・授乳中の患者への薬の選び方と説明はどうしたらよいでしょうか?」治療, 2012, 94 増刊:792-795.
81. Morikawa M, Minakami H, et al. Clinical features and short-term outcomes of triplet pregnancies in Japan. *Int J Gynaecol Obstet*, 2013, 121(1):86-90.
82. Morikawa M, Minakami H. Fetal macrosomia in Japanese women. *J Obstet Gynaecol Res*, 2013, 39(5):960-965.
83. Yamada T, Minakami H. Umbilical cord presentation after use of a trans-cervical balloon catheter. *J Obstet Gynaecol Res*, 2013, 39(3):658-662.
84. Yamada T, Minakami H, et al. First-trimester serum folate levels and subsequent risk of abortion and preterm birth among Japanese women with singleton pregnancies. *Arch Gynecol Obstet*, 2013, 287(1):9-14.
85. Yamada T, Minakami H, et al. Association of antithrombin activity with plasma aldosterone concentration and plasma renin

- activity in pregnant women. *Hypertens Pregnancy*. 2013, 32(1): 96-103.
86. Yamada T, Minakami H, et al. Changes in hemoglobin F levels in pregnant women unaffected by clinical fetomaternal hemorrhage. *Clin Chim Acta*, 2013, 415:124-127.
 87. Nishida R, Minakami H, et al. Usefulness of transverse fundal incision method of cesarean section for women with placentas widely covering the entire anterior uterine wall. *J Obstet Gynaecol Res*, 2013, 39(1):91-95.
 88. Yamada T, Minakami H, et al. Recurrence of osteogenesis imperfecta due to maternal mosaicism of a novel COL1A1 mutation. *Am J Med Genet A*, 2012, 158A(11):2969-2971.
 89. Yamada T, Minakami H, et al. Serum levels of N-terminal fragment of precursor protein brain-type natriuretic peptide (NT-proBNP) in twin pregnancy. *Clin Chim Acta*. 2013, 415:41-44.
 90. Morikawa M, Minakami H, et al. Prospective risk of intrauterine fetal death in monoamniotic twin pregnancies. *Twin Res Hum Genet*. 2012, 15(4):522-526.
 91. Yamada T, Minakami H, et al. Effects of caesarean section on serum levels of NT-proBNP. *Clin Endocrinol (Oxf)*, 2013, 78(3):460-465.
 92. Yamada T, Minakami H, et al. Clinical features of abruptio placentae as a prominent cause of cerebral palsy. *Early Hum Dev*, 2012, 88(11):861-864.
 93. Ishikawa S, Minakami H, et al. Fetal Presentation of Long QT Syndrome-Evaluation of Prenatal Risk Factors: A Systematic Review. *Fetal Diagn Ther*, 2013, 33(1):1-7.
 94. Morikawa M, Minakami H, et al. Prevalence of hyperglycemia during pregnancy according to maternal age and pre-pregnancy body mass index in Japan, 2007-2009. *Int J Gynaecol Obstet*, 2012, 118(3):198-201.
 95. Koyama T, Minakami H, et al. Plasma aldosterone concentration and plasma renin activity decrease during the third trimester in women with twin pregnancies. *Hypertens Pregnancy*, 2012, 31(4):419-426.
 96. Morikawa M, Minakami H, et al. Prospective risk of stillbirth: monochorionic diamniotic twins vs. dichorionic twins. *J Perinat Med*, 2012, 40(3):245-249.
 97. Nakai A, Minakami H, et al. Review of the pandemic (H1N1)2009 among pregnant Japanese women. *J Obstet Gynaecol Res*, 2012, 38(5):757-762.
 98. Unno N, Minakami H, et al. Effect of the Fukushima nuclear power plant accident on radioiodine (¹³¹I) content in human breast milk. *J Obstet Gynaecol Res*, 2012, 38(5):772-779.
 99. Yila TA, Minakami H, et al. Effects of maternal 5, 10-methylenetetrahydrofolate reductase C677T and A1298C Polymorphisms and tobacco smoking on infant birth weight in a Japanese population. *J Epidemiol*, 2012, 22(2):91-102.
 100. Morikawa M, Minakami H, et al. Risk factors for eclampsia in Japan between 2005 and 2009. *Int J*

- Gynaecol Obstet, 2012, 117(1): 66-68.
101. Yamada T, Minakami H, et al. Risk factors of eclampsia other than hypertension: pregnancy-induced antithrombin deficiency and extraordinary weight gain. *Hypertens Pregnancy*, 2012, 31(2): 268-277.
 102. Morikawa M, Minakami H et al. Characteristics of insulin secretion patterns in Japanese women with overt diabetes and gestational diabetes defined according to the International Association of Diabetes and Pregnancy Study Groups criteria. *J Obstet Gynaecol Res*, 2012, 38(1): 220-225.
 103. Moriichi A, Minakami H, et al. B-type natriuretic peptide levels at birth predict cardiac dysfunction in neonates. *Pediatr Int*, 2012, 54(1):89-93.
 104. Matsumoto K, Yoshikawa H. Human papillomavirus infection and risk for cervical cancer in Japan. *J Obstet Gynaecol Res*, 2013, 39(1): 7-17.
 105. Michikami H, Yoshikawa H, et al. Safety and efficacy of substituting nedaplatin after carboplatin hypersensitivity reactions in gynecologic malignancies. *J Obstet Gynecol Res*, 2013, 39(1):330-335.
 106. Mayumi M, Hamada H, Yoshikawa H, et al. Discordance in Pena-Shokeir phenotype/fetal akinesia deformation sequence in a monoamniotic twin. *J Obstet Gynaecol Res*, 2013, 39(1):344-346.
 107. Abe A, Yoshikawa H, et al. PIK3CA overexpression is a possible prognostic factor for favorable survival in ovarian clear cell carcinoma. *Human Pathology*, 2013, 44(2):199-207.
 108. Fujii T, Yoshikawa H, et al. Association between carotenoids and outcome of cervical intraepithelial neoplasia: a prospective cohort study. *Int J Clin Oncol*, 2013, 18(6): 1091-1101.
 109. Yoshikawa H, et al. Efficacy of quadrivalent human papillomavirus (types 6, 11, 16, and 18) vaccine (GARDASIL®) in Japanese women aged 18 to 26 years. *Cancer Science*, 2013, 104(4):465-472.
 110. Satoh T, Yoshikawa H, et al. Incidence of venous thromboembolism before treatment in cervical cancer and the impact of management on venous thromboembolism after commencement of treatment. *Thrombosis Research*, 2013, 131(4): e127-132.
 111. Matsumoto T, Yoshikawa H, et al. Clinical Management of Atypical Polypoid Adenomyoma of the Uterus. A Clinicopathological Review of 29 Cases. *Gynecol Oncol*, 2013, 129(1):54-57.
 112. Tanaka YO, Yoshikawa H, et al. Diversity in size and signal intensity in multilocular cystic ovarian masses: New parameters for distinguishing metastatic from primary mucinous ovarian neoplasms. *J Magn Reson Imaging*, 2013, 38(4): 794-801.
 113. Katsumata N, Yoshikawa H, et al. Phase III randomized controlled trial of neoadjuvant chemotherapy plus radical surgery versus radical surgery alone for stages

- IB2, IIA2, and IIB cervical cancer: A Japan Clinical Oncology Group trial (JCOG 0102). *Br J Cancer*, 2013, 108(10):1957-1963.
114. Akiyama-Abe A, Yoshikawa H, et al. Loss of PTEN expression is an independent predictor of favorable survival in endometrial carcinomas. *Br J Cancer*, 2013, 109(6):1703-1710.
115. Eto T, Yoshikawa H, et al. Status of treatment for the overall population of patients with stage IVb endometrial cancer, and evaluation of the role of preoperative chemotherapy: A retrospective multi-institutional study of 426 patients in Japan. *Gynecol Oncol*, 2013, 131(3):574-580.
116. Takano M, Yoshikawa H, et al. Surgery for endometrial cancers with suspected cervical involvement: is radical hysterectomy needed (a GOTIC study)? *Br J Cancer*, 2013, 109(7):1760-1765.
117. Abe K, Hamada H, Minakami H, Yoshikawa H, et al. Impact of planning of pregnancy in women with epilepsy on seizure control during pregnancy and on maternal and neonatal outcomes. *Seizure: European Journal of Epilepsy*, 2014, 23(2):112-116.
118. Tasaka N, Yoshikawa H, et al. Therapeutic effect of dienogest on adenocarcinoma arising from endometriosis: a case report. Springerplus. in press
119. 吉川裕之:「EBM とガイドライン」産科婦人科疾患最新の治療 2013-2015 南江堂, 2013, 1-4.
120. 吉川裕之:「産科婦人科診療ガイドライン 産科編の理解にあたって」周産期医学 2013, 43(10):1207-1210.
121. Ogata T, Shozu M, et al. Aromatase excess syndrome as a model for genomic disorder: identification of molecular bases and phenotypic determinants. *Int J of Pediatric Endocrinology*. 2013(Suppl 1):020
122. Omoto A, Shozu M, et al. A case of fetal goiter that resolved spontaneously after birth. *J Clin Endocrinol Metab*, 2013, 98(10):3910-3911.
123. Yamamoto N, Shozu M, et al. Tumor-suppressive microRNA-29a inhibits cancer cell migration and invasion via targeting HSP47 in cervical squamous cell carcinoma. *Int J Oncol*, 2013, 43(6):1855-1863.
124. Kato K, Shozu M, et al. Assessment of intraoperative tube thoracostomy after diaphragmatic resection as part of debulking surgery for primary advanced-stage Mullerian cancer. *Gynecologic Oncology*, 2013, 131(1):32-35.
125. Ema M, et al. Historical control data on developmental toxicity studies in rodents. *Congenit Anom.* in press
126. Ema M, et al. Dermal and eye irritation and skin sensitization studies of fullerene C₆₀ nanoparticles. *Cut Ocul Toxicol*, 32(2):128-134, 2013.
127. Ema M, et al. Genotoxicity evaluation for single-walled carbon nanotubes in a battery of in vitro and in vivo assays. *J Appl Toxicol*, 2013, 33(9):933-939.
128. Ema M, et al. In vivo comet assay of multi-walled carbon nanotubes using lung cells of rats

- intratracheally instilled. *J Appl Toxicol*, 2013, 33(10):1053-1060.
129. Ema M, et al. Developmental toxicity of diesel exhaust: a review of studies in experimental animals. *Reprod Toxicol*, 2013, 42:1-17.
130. 小宮春奈、濱田洋実、吉川裕之、他: Interferon- α による周産期管理を行った妊娠中発症の本態性血小板血症合併妊娠の一例. *日本周産期・新生児医学会雑誌*, 2013, 49(3):1050-1054.
131. 村島温子: 妊婦の実地内科日常診療 “エビデンスに基づいた妊婦と授乳婦の薬の選択と使いかた”. *Medecal Practice*, 2013, 30(9):1500-1506.
132. 永川明香、村島温子: 小児科医が知っておくべき妊娠中の注意事項 妊産婦と薬剤. *小児科診療* 2013, 76(12):1967-1973.
133. Morikawa M, Minakami H, et al. Do uterotonic drugs increase risk of abruptio placentae and eclampsia? *Arch Gynecol Obstet*. in press
134. Saito S, Minakami H, et al. Outcome of infants exposed to oseltamivir or zanamivir in utero 2 during pandemic (H1N1) 2009. *Am J Obstet Gynecol*, 2013, 209(2):130.e1-9.
135. Yamada T, Minakami H, et al. Immune status among Japanese during nationwide rubella outbreak in Japan 2012-2013. *J Infect*, 2014, 68(3):300-302.
136. Minakami H, et al. Causes of a nationwide rubella outbreak in Japan, 2012-2013. *J Infect*, 2014, 68(1):99-101.
137. Suzuki M, Minakami H, et al. Radioactive cesium (^{134}Cs and ^{137}Cs) content in human placenta after the Fukushima nuclear power plant accident. *J Obstet Gynaecol Res*, 2013, 39(9):1406-1410.
2. 学会発表
1. 小倉 剛、濱田洋実、吉川裕之、他: 「妊娠糖尿病の新しい診断基準のみ陽性例はハイリスクか?」 第 63 回日本産科婦人科学会・総会・学術講演会, 2011年8月29日-30日, 大阪.
2. 小島真奈、濱田洋実、吉川裕之、他: 「心磁計測を用いた胎児診断の有用性」 第 63 回日本産科婦人科学会・総会・学術講演会 8月29日-30日、2011. 大阪.
3. 鈴木義也、生水真紀夫、他: 「妊娠初期のパルボウイルス感染により IUFD に至った一例. 妊娠初期のパルボウイルス感染により IUFD に至った一例」 第 24 回千葉大学医学部産科婦人科学教室関連病院会臨床研究会. 2011年3月4日, 千葉.
4. Mitsuhashi A, Shozu M, et al. The effect of metformin on cell proliferation in patients with endometrial cancer. 2011 ASCO Annual Meeting. 2011年6月3-7日 Chicago.
5. 碓井宏和、生水真紀夫、他: 「Quiescent gestational trophoblastic disease と考えられた 2 症例」 第 121 回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会. 2011年6月12日、東京.
6. Segawa T, Shozu M, et al. Natural cycle IVF protocol may be an option for the first IVF cycle in advanced age women. 27th Annual Meeting of the European Society of Human Reproduction & Embryology (ESHRE 2011). 2011年7月6日, Stockholm.
7. 三橋 暁、生水真紀夫、他: 「子宮体癌に対するメドロキシプロゲステロン + メトホルミン併用妊孕性温存療法の前方視的試験」 第 50 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2011年7月22日、札幌.

8. 生水真紀夫:「Aromatase inhibitorsによる排卵誘発の展望」第29回日本受精着床学会総会・学術講演会, 2011年9月10日、東京.
9. Mitsuhashi A, Shozu M, et al. Metformin prevents recurrence following discontinuation of progestin therapy for fertility-sparing treatment in young women with endometrial cancer or atypical endometrial hyperplasia. The 17th International Meeting of the European Society of Gynaecological Oncology (ESGO) September 11-14, 2011. Milan, Italy.
10. 栗本ちえ子、生水真紀夫、他:「妊娠前の子宮卵管造影が原因と考えられた胎児巨大甲状腺腫の一例」第122回関東連合産科婦人科学会. 2011年10月30日、横浜.
11. Hirata-Koizumi M, Emma M, et al.: Two-generation reproductive toxicity study of aluminium sulfate administered via drinking water to rats. The 50th Annual Meeting of the Society of Toxicology. March 6-10, 2011, Washington, DC, USA
12. Naya M, Emma M, et al.: Pulmonary toxicity of crystalline silica after a single intratracheal instillation in rats. The 50th Annual Meeting of the Society of Toxicology. March 6-10, 2011, Washington, DC, USA
13. 平田睦子、江馬 眞、他.:硫酸アルミニウムの飲水投与による二世代繁殖毒性試験、第51回日本先天異常学会学術集会, 7月22-24日、2011、東京
14. Emma M, et al.: A review of literature on genotoxicity of fullerenes and their derivatives. The 47th Congress of the European Society of Toxicology, August 28-31, 2011, Paris, France
15. Naya M, Emma M, et al.: Evaluation of the genotoxic potential of single-wall carbon nanotubes by using a battery of in vitro and in vivo genotoxicity assays. The 47th Congress of the European Society of Toxicology, August 28-31, 2011, Paris, France.
16. Naya M, Emma M, et al.: Protective effects of glutathione on teratogenicity of cadmium chloride in mice. The 39th Annual Meeting of the European teratology Society, September 4-7, 2011, Gent, Belgium
17. Emma M: Fetal malformations and early embryonic gene expression response in Cynomolgus monkeys maternally exposed to thalidomide. Elsevier Award lecture, The 39th Annual Meeting of the European teratology Society, September 4-7, 2011, Gent, Belgium
18. 東梅久子、北川浩明、他:「東日本大震災が不妊治療に及ぼす影響」第29回日本受精着床学会 2011年9月10日、東京.
19. 山口 隆、北川浩明、他:「造血器腫瘍の治療のため精子凍結保存を行った症例の検討」第56回日本生殖医学会, 2011年12月8日、東京.
20. 大野雅代、北川浩明、他:「悪性腫瘍による精子凍結保存への看護アプローチ」第56回日本生殖医学会 2011年12月8日、東京.
21. 藤澤佳子、北川浩明、他:「悪性腫瘍に対する配偶子凍結保存の現状」第56回日本生殖医学会 2011年12月8日、東京.
22. 東梅久子、北川浩明、他:「東日本大震災が不妊カップルに及ぼす影響」第56回日本生殖医学会 2011年12月9日、東京.
23. 安部加奈子、濱田洋実、吉川裕之、他:「過去12年間のてんかん合併妊娠

- 110 症例の後方視的検討 -計画妊娠は有用か?-」第 63 回日本産科婦人科学会学術講演会、2011 年 8 月、大阪
24. 酒井のぞみ、佐藤信範：妊娠中のベンゾジアゼピン系催眠・鎮静剤、抗不安剤使用に関する検討 第 21 回日本医療薬学会年会、2011 年 10 月 1 日-2 日、神戸。
 25. 村島温子：「アレルギー疾患と妊娠-薬物治療のあり方を中心として-」第 23 回日本アレルギー学会春季臨床大会、2011 年 5 月 15 日、千葉。
 26. 村島温子：「RA における妊娠と出産-生物学的製剤を含めた最新治療-」第 55 回日本リウマチ学会総会・学術集会・第 20 回国際リウマチシンポジウム、2011 年 7 月 18 日、神戸。
 27. 村島温子：「妊娠と薬情報センターの現状と展望」第 51 回日本先天異常学会学術集会、2011 年 7 月 23 日、東京。
 28. 石井真理子、村島温子、他：「妊娠初期にゾルピデムを使用した妊婦の妊娠転帰の検討。第 51 回日本先天異常学会学術集会、2011 年 7 月 23 日、東京。
 29. 村島温子：「我が国における妊娠・授乳と薬の情報発信(妊娠と薬情報センターとしての取り組み)。第 114 回日本小児科学会、2011 年 8 月 12 日、東京。
 30. 青木宏明、村島温子、他：「妊娠中ロキソプロフェン曝露の安全性の検討」第 63 回日本産科婦人科学会学術講演会、2011 年 8 月 29 日、大阪。
 31. 村島温子：「妊婦の抗リウマチ薬使用とその安全性」第 32 回日本臨床薬理学会、2011 年 12 月 3 日、浜松。
 32. 永井優子、濱田洋実、吉川裕之、他：「消化管穿孔を合併した先天性横隔膜ヘルニア出生前診断」第 64 回日本産科婦人科学会学術講演会、2012 年 4 月 13 日-15 日、神戸。
 33. 八木洋也、濱田洋実、吉川裕之、他：「肝臓を標的とした遺伝子治療によるフェニルケトン尿症マウスの脳内のアミンの改善 - maternal PKU のさらなる予防に向けて-」第 64 回日本産科婦人科学会学術講演会、2012 年 4 月 13 日-15 日、神戸。
 34. 田中勝洋、濱田洋実、吉川裕之、他：「診断基準改訂により新たに妊娠糖尿病と追加診断される症例の周産期リスクおよび治療効果に対する母体非妊時 BMI の影響」、第 64 回日本産科婦人科学会学術講演会、2012 年 4 月 13 日-15 日、神戸。
 35. 田中勝洋、濱田洋実、吉川裕之、他：「胎児の心臓脱症と羊膜索症群による無頭蓋症を合併した一例」第 123 回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会、2012 年 6 月 17 日、東京。
 36. 野口里枝、濱田洋実、吉川裕之、他：「胎児 MRI で脳室周囲白質軟化を認めたピルビン酸脱水素酵素複合体欠乏症の一例」第 124 回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会、2012 年 10 月 28 日、山梨。
 37. Mitsuhashi A, Shozu M, et al. Metformin prevents recurrence after progestin therapy and improve insulin resistance for fertility -sparing treatment in young women with endometrial cancer or atypical endometrial hyperplasia. 15th International Congress on Hormonal Steroids and Hormones & Cancer. Ishikawa Ongakudo (石川県立音楽堂). 2012 年 11 月 15 日-17 日
 38. Uehara T, Shozu M, et al. Metformin Combination with Cytotoxic Chemotherapeutic Agents in Endometrial Cancer Cell Line. 15th International Congress on Hormonal Steroids and Hormones & Cancer. Ishikawa Ongakudo (石川県立音楽堂). 2012 年 11 月 15 日-17 日
 39. 亀井未央、生水真紀夫、他：「正常子宮内妊娠を伴った子宮頸管妊娠の一例」千葉産科婦人科学会平成 23 年度

- 冬期学術講演会. 2012年1月28日, 千葉.
40. 栗本ちえ子、生水真紀夫、他:「妊娠前の子宮卵管造影が原因と考えられた胎児巨大甲状腺腫の一例」第10回千葉内分泌・代謝談話会. 2012年2月9日, 千葉.
 41. 碓井宏和、生水真紀夫、他:「Low-risk gestational trophoblastic neoplasia に対する MTX 療法の効果・副作用と葉酸代謝酵素遺伝子多型の関連～絨毛性腫瘍の個別化医療を目指して」第64回日本産科婦人科学会学術講演会. 2012年4月13日-15日, 神戸.
 42. 井上万里子、生水真紀夫、他:「慢性骨髄白血病合併妊娠の3例」第64回日本産科婦人科学会学術講演会. 2012年4月13日-15日, 神戸.
 43. 三好剛一、生水真紀夫、他:「胎児徐脈性不整脈に対する胎児治療効果についての検討(胎児徐脈の胎児治療に関する現状調査2002-2008より)」第64回日本産科婦人科学会学術講演会. 2012年4月13日-15日, 神戸.
 44. 木崎尚子、生水真紀夫、他:「分娩後絨毛癌の予後因子について」第64回日本産科婦人科学会学術講演会. 2012年4月13日-15日, 神戸.
 45. 生水真紀夫. <教育講演>子宮内膜癌のメトホルミン併用 MPA 療法. 第53回日本臨床細胞学会総会(春期大会). 2012年6月1日-3日, 千葉.
 46. 三橋 暁、生水真紀夫、他:ワークショップ(2)【若年子宮体がんに対する治療戦略】子宮体癌・子宮内膜異型増殖症に対するメトロキシプロゲステロン+メトホルミン併用妊孕性温存療法の前方視的試験. 第52回日本婦人科腫瘍学会学術講演会. 2012年7月19日-21日 東京
 47. Naya M, Ema M. et al. In vivo lung comet assay of SWCNTs following intratracheal instillation to rats. The 48th Congress of the European Society of Toxicology (EUROTOX), June 17-20, 2012, Stockholm, Sweden.
 48. Ema M. et al. Evaluation of genotoxic potential of multi-walled carbon nanotubes. The 48th Congress of the European Society of Toxicology (EUROTOX), June 17-20, 2012, Stockholm, Sweden.
 49. 山内俊明、江馬 眞、他:「ウサギ発生毒性試験の背景データ 1: 1994-2000年の日本白色種の背景データ」第52回日本先天異常学会学術集会、2012年7月6日-8日, 東京.
 50. 井上歩美、江馬 眞、他:「ウサギ発生毒性試験の背景データ 2: 2001-2010年の日本白色種の背景データ」第52回日本先天異常学会学術集会、2012年7月6日-8日, 東京.
 51. 三輪洋司、江馬 眞、他:「ウサギ発生毒性試験の背景データ 3: 1994-2000年のニュージーランド白色種の背景データ」第52回日本先天異常学会学術集会、2012年7月6日-8日, 東京.
 52. 上杉 透、江馬 眞、他:「ウサギ発生毒性試験の背景データ 3: 2001-2010年のニュージーランド白色種の背景データ」第52回日本先天異常学会学術集会、2012年7月6日-8日, 東京.
 53. 松山玲子、北川浩明、他:「子宮鏡下手術におけるジェノゲスト術前投与の有用性」第52回日本産科婦人科内視鏡学会, 2012年9月1日, 札幌.
 54. 山口 隆、北川浩明、他:「悪性腫瘍に対する配偶子保存の現状と問題点」第61回共済医学会, 2012年10月12日, 広島.
 55. 松山玲子、北川浩明、他:「出生児にBeckwith-Wiedemann 症候群が疑われた顕微授精・凍結融解胚移植後妊娠の一例、第57回日本生殖医学会, 2012年11月8日、長崎.

56. 山口 隆、北川浩明、他：「子宮内膜症性気胸のため、不妊治療が困難となった2症例の検討」第57回日本生殖医学会，2012年11月8日，長崎。
57. 東梅久子、北川浩明、他：「悪性腫瘍に対する精子凍結保存期間に関する検討」第57回日本生殖医学会，2012年11月8日，長崎。
58. 保谷茉莉、北川浩明、他：「悪性の経過をたどった悪性度不明な子宮平滑筋腫瘍の1例」第364回東京産科婦人科学会例会、2012年12月15日，東京。
59. Abe K, Hamada H, Yoshikawa H, et al. : Does planned pregnancy for women with epilepsy improve seizure control during pregnancy and reduce adverse maternal and neonatal outcomes? XX FIGO World Congress of Gynecology and Obstetrics, Rome, Italy, Oct 2012
60. 八鍬奈穂、村島温子、他：「妊娠と薬情報センターの取り組みについての評価」日本薬学会第132年会，2012年3月31日，札幌。
61. 石井真理子、村島温子、他：「妊娠と薬情報センターにおける相談状況の実際」日本薬学会第132年会，2012年3月31日，札幌。
62. 村島温子：妊娠と薬情報センターの視点から。第33回日本妊娠高血圧学会，2012年9月8日，長崎。
63. 村島温子：「妊娠高血圧の最善治療を討論する 薬剤選択の立場から」第35回日本高血圧学会総会，2012年9月20日，名古屋。
64. 安部加奈子、濱田洋実、吉川裕之、他：「拡張型心筋症による重症心不全女性の妊娠分娩管理」第65回日本産科婦人科学会学術講演会 2013年5月10日-12日。札幌。
65. 小倉 剛、濱田洋実、吉川裕之、他：「DNA 多型解析およびp57^{KIP2}免疫染色にてandrogenetic/ biparental モザイクと考えられた間葉性異形成胎盤の1例」第65回日本産科婦人科学会学術講演会，2013年5月10日-12日。札幌。
66. 小倉 剛、濱田洋実、吉川裕之、他：「胎児下部尿路閉塞の胎児治療（胎児尿路-羊水腔シャント術）に関する再評価」第36回日本産科婦人科学会学術学会，2013年9月28日-29日，東京。
67. 飯場萌絵、吉川裕之、他：「Kallmann 症候群の2例」第126回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会，2013年10月26日-27日，浜松。
68. 森 悠樹、濱田洋実、吉川裕之、他：「抗Eおよび抗体cによる胎児貧血に対して胎児輸血を施行した症例」第174回茨城産科婦人科学会，2013年11月9日，水戸。
69. Shozu M, et al. . Symposium 2 Non-androgenic steroids in the male : Organisation, function and relationship of aromatase promoters . 10th International Congress of Andrology (ICA). 3 - 26 February 2013, Melbourne, Australia.
70. 尾本暁子、生水真紀夫、他：頸管妊娠に託する妊孕性温存治療の成績。第65回日本産科婦人科学会学術講演会。2013年5月10日-12日、札幌。
71. 三好剛一、生水真紀夫、他：胎児不整脈班。治療困難症例から学ぶ 心構造異常を伴う胎児徐脈性不整脈についての検討（胎児徐脈の胎児治療に関する現状調査 2002-2008 より）。第49回日本周産期・新生児医学会学術集会。2013年7月14日-16日、横浜。
72. 三橋 暁、生水真紀夫、他：メトホルミンは間接的に子宮内膜癌患者の増殖を抑制する。第54回日本婦人科腫瘍学会学術講演会。2013年7月19日-21日、東京。
73. 生水真紀夫。特別講演：がん予防薬：メトホルミン。第27回日本臨床細胞学会関東連合学術集会。2013年9月

- 7日、千葉。
74. 生水真紀夫. 教育講演：アロマトーゼ過剰症. 第21回日本ステロイドホルモン学会学術集会. 2013年11月16日、大阪.
75. 勝俣芳裕、江馬 眞、他：「ラット発生毒性試験の背景データ1：1994-2000年のCr1j:CD(SD)系統の背景データ。」第53回日本先天異常学会学術集会、2013年7月21日-23日、大阪.
76. 山内俊明、江馬 眞、他：「ラット発生毒性試験の背景データ2：1994-2000年のCr1:CD(SD)系統の背景データ。」第53回日本先天異常学会学術集会、2013年7月21日-23日、大阪.
77. 立石大志、江馬 眞、他：「ラット発生毒性試験の背景データ3：2001-2010年のCr1:CD(SD)系統の背景データ。」第53回日本先天異常学会学術集会、2013年7月21日-23日、大阪.
78. Ono A, Emma M, et al. Gender related deference in the toxic susceptibility of rats to an ultraviolet absorber, 2-(2'-hydroxy-3',5'-di-tert-butylphenyl)benzotriazole: a role of peroxisome proliferator-activated receptor (PPAR) alpha. The 49th Congress of the European Society of Toxicology (EUROTOX), September 1-4, 2013, Interlaken, Switzerland.
79. Naya M, Emma M, et al. Pulmonary toxicity assessment of multiwalled carbon nanotubes after single intratracheal instillation in a one-year bioassay of rats. Society of Toxicology 52nd Annual meeting, March 10-14, 2014, San Antonio, USA.
80. 濱田洋実：日本の医薬品添付文書の現状と今後について. 妊娠と薬情報センター開設8周年記念フォーラム, 東京, 2013年10月27日
81. 濱田洋実：専攻医教育プログラム「妊娠とくすり」。第65回日本産科婦人科学会学術講演会, 札幌, 2013年5月10日-12日.
82. Morita R, Sato N, et al. Anti-influenza drug use during pregnancy. ASHP 2013 Summer Meeting and Exhibition, Minneapolis, Minnesota, June 2-5, 2013, USA
83. 森田理恵子、佐藤信範、他. 妊婦に関する抗インフルエンザ薬の情報学的検討と妊娠中の抗インフルエンザ薬使用. 第23回医療薬学会 2013年9月21日-22日, 仙台.
84. Watanabe O, Murashima A, et al. Pregnancy outcome after first trimester exposure to quinolones. 26th Annual Education Meeting for Organization of Teratology Information Specialists Members and Mother To Baby Affiliates Tucson, AZ U.S.A. 2013.6.24
85. 村島温子、他：「ワークショップ」妊婦・授乳婦を苦手にならない-プライマリ・ケアのための母性内科-. 第4回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 2013年5月18日, 仙台.
86. 村島温子：「教育講演」よくわかる妊娠・授乳とステロイド・免疫抑制薬. 第54回日本神経学会学術大会, 2013年5月31日, 東京.
87. 中島 研、村島温子、他：妊娠と薬情報センターにおける新たなデータベースの構築 第23回日本医療薬学会年会, 2013年9月22日, 仙台.
88. 村島温子：「シンポジウム」総論～妊娠と薬情報センターの立場から～. 第40回日本小児薬理学会学術講演会, 2013年11月3日. 東京
89. 村島温子：Meet The Expert 4 「周産期医療（妊婦・授乳婦）」. 第35回